

2016 年度自己評価

(はじめに)

本年度は、来年度からの幼保連携型認定こども園施行のために必要な、様々な実質的な準備をする年となった。子どもたちへの直接的な変化は、新園舎建築で駐車場や園庭が使用できないため、例年行ってきた行事を見直し、不便な状況を子どもたちに感じさせないよう様々な新しい企画を実施したことだと思う。新園舎への希望を皆で共有し楽しみに過ごし、今年度企画したものが子どもの成長を促すものであったかを十分検討し、これからに生かしていきたい。またその中で、子ども一人ひとりの内面的な育ちを逃すことなく見つめていきたいと願い、その上で以下の自己評価とした。

『光の子ども—光の持つ明るさ、やさしさ、強さ、豊かさをもつ子ども—』

キリスト教が示す神の愛と、神から与えられた命の尊さを知り、感謝し、共に生きる喜びを味わい、愛と自由と希望に生きる主体的で豊かな人間性を養う。

〈本年度の重点目標〉

「 平和をともに 」

- (1) 子どもたちが安心して過ごし、感性豊かに主体的に生きる幼稚園
- (2) 保護者、地域と手を携えて子どもとともに育ち合う幼稚園

〈目標達成の具体的手だてと反省・評価〉

(1) 子どもたちが安心して過ごし、感情豊かに主体的に生きる幼稚園

① 園児一人ひとりが喜んで幼稚園に通い、楽しい時を過ごしているかに着目する。

〈解説〉園児は一人ひとり違った個性を持ち、また成長にも個人差がある。一人ひとりがどのような思いで幼稚園での時を過ごしているのかを常に着目していきたい。保育者が、一時預かりの1才児から年長児までの子どもを見ることで、成長の発達段階をより理解し、また十分に連携を取り合うことによって深い子どもの理解に努めたい。

〈反省・評価〉

- ・保育者全員が園児全員を把握するために、毎日のミーティング、月1回の職員会議を持ち情報共有に努め様々な課題を話し合うことができた。
- ・特に支援が必要な園児に対しては、保育者同士は常に連携を図り、また保護者と信頼関係を築けるよう対話することを大切にした。
- ・毎週行っている礼拝では、いつも傍で守ってくださる方(神様)がいると感じられる聖書のお話をし、キリスト教の神の愛を伝え、心の安心に繋げた。
- ・保護者のアンケートでは、以下の結果であった。

お子さんは幼稚園に行くことを喜び、楽しみにしていますか？

A86.7% (年長86% 年中88% 年少88% 満3才80%) B11.7% C1.6%

明るく親しみが持て、楽しい雰囲気保育がなされていると思いますか。

A 93% B 7%

アンケートの中では、学年が上がるにつれ「喜んで幼稚園に通っている」と感じている保護者の割合が増えている。理解が深まるほど園児は幼稚園を楽しく感じていることがわかる。よって、この一年を通して、園児は喜んで幼稚園に通い、保護者は、幼稚園は楽しい時を過ごせる雰囲気だと感じていると思われる。

② より多くの友だちとの出会いの場となるように工夫する。

〈解説〉多くの違った個性の友だちと出会うことにより、多くの刺激を受け自らの成長の糧になるばかりでなく、相手を思いやる気持ちが持てるようになる。一時預かりの1、2才児を含めて、異年齢との出会いを様々な活動の中で提供することで、子どもたちが自分と相手との違いを自ら気づき、どのように過ごすかを考える経験をさせたい。

〈反省・評価〉

好きな場所で、好きな友だちと遊ぶ時、全園児で共に過ごす時、同年齢のクラスで過ごす時、異年齢のグループで過ごす時など、年間を通して一人の園児がたくさんの園児と出会うことができる場を工夫してきた。

- ・積極的に園外の公園に出かけ、自然な形で1才～5才までが触れ合うことができた。
- ・また園外保育では年長児はできるだけ年少児と手をつなぎ現地まで歩くようにした。
- ・数回の遠足では、少人数の縦割りのグループを作って行動した。
- ・クリスマスの降誕劇では、場面ごとのグループに分かれ劇作りに取り組んだ。
- ・3学期には、自由な形で、子どもたちから提案された物を作る製作活動に取り組み、できた物を売り買いして楽しむお店屋さんごっこを行った。

それらの経験の中で自分と相手の違いを理解し、互いに折り合いをつけながら遊ぶ姿や、思いやりを持って接する姿などが多く見られた。

満3才児クラスでは、年中・長組の発表会での姿に刺激を受け、自分たちの遊びに取り込んでいる姿見られた。

更に、園児同士にとどまらず、今年度初めて計画した夏休み中に親子で参加する『夏祭り』では、様々なゲーム等を通じて、普段接点の持ちづらい保育者とも関わる機会を持った。これは、全園児の家族が参加し、夕方に設定したため働いている0、1、2才の保護者とも幼稚園全体が触れ合う機会となった。また、幼稚園の活動へ参加することが少ない父親の幼稚園理解にも繋がった。保護者が安心して送り出せる場所として幼稚園を理解することで、結果子どもの安心できる居場所となった。

③ 安全に配慮し、また自ら危険を回避できるように促し、安心して過ごせる場とする。

〈解説〉保育者は、子ども一人ひとりの遊びを把握し、連携を取りながら各場所での子どもの動向を見ていく必要がある。保育者が一方的に危険な環境を排除することは容易ではあるが、それがなぜ危険なのか、なぜ排除するのか、経験を通して子どもたち自ら考え、話し合っ、安全な環境を子どもたちと共に作っていきたいと考える。

そのために、様々な場면을体験し、予想される危険を考え合ったり、報道を通して知り得た自然災害を話し合いながら、自らの力で安全を守る大切さを気づかせたい。

〈反省・評価〉

- ・年長組は例年通り、防災センターを見学した。そこで学んだことを全園児に発表し、全園児が防

災の意識を高めることができた。

- ・災害にに応じて、どう行動するべきかを子どもたちと話し合い、避難訓練を実施した。その際に、保育者も訓練結果を通して見えてきた課題について考え合った。
- ・保育室の年齢の低い子どもたち・支援の必要な子どもたちと共に同じ空間で過ごすことによって、自分のことだけでなく全体で気を配り合い危険を回避しようとする意識を育てることができた。

④ 幼児自ら考え、工夫し、探求する場、達成する場となるような環境を設定する。

〈解説〉自我意識が芽生えている幼児は、自分なりの思いを持っている。従って幼稚園の生活も、指示されることや、教えられることよりも、自ら考えたことを実行し、共に工夫しながら活動することを重視したい。日々の子どもの遊びに目を留め、一人や数人の遊びが、全体の遊びとなるように援助したい。また、様々な活動を通して、みんなで考え合って取り組むことを経験し、その達成感を共に感じるができるように促し、時には、保育者が軌道修正しながら進めていきたい。

〈反省・評価〉

- ・自分の思いを自由に実現できる時間と空間をゆったり取ることで、それぞれに自らの意志で友だちを見つけ、自分の選んだ場所で遊び、のびのび過ごす姿を多く見ることができた。
- ・気になる行動をとる幼児には、保育者全員で情報を共有するため個人記録ノートを作成し、どこでどんな行動があり、保育者がどんな関わりを持ったか、を書きこんでいった。それにより全保育者がその子の様子を把握することができ、遊びの展望、問題点、理解を話し合うことができた。
- ・運動会では、玉入れ、リレーなどを自由に誰もが取り組めるよう環境を作り、繰り返し遊ぶ中で必要なルールを理解していき、その後に種目に取り入れた。それにより仲間と共に力をあわせて競争したりする楽しさを味わうことができた。
- ・秋に行った発表会では、自分たちで表現してみたい劇を相談しながら自らが選び、その表現方法を工夫し、どのクラスもそれぞれに成長に相応しい発表ができた。
- ・自主的に自由な形で取り組んだお店屋さんごっこでは、特に経験を重ねている年中・長児が、一人ひとり自由に思いを表現し、どのような品物をどのように作るか、どんな材料が必要かなど、考え合う姿が多く見られた。また、それを売り買いする場を全体に呼びかけ共有して楽しむことで、年少児・満3歳児に刺激を与えた。
- ・保護者アンケートでは、
子どもの育ちに大切な「自ら考え行動すること」が、日々の保育の中で生かされていると思いますか。
A 82% B 17% C 0.8%
と高評価を得ている。

⑤ 保育者は、幼児一人ひとりが、自己肯定感を持ち主体的に過ごしているかに着目する。

〈解説〉園全体・クラス全体のように子どもを集団としてとらえるのではなく、日々の活動の中の一人ひとりを丁寧に見、心の動きを読み取ることが大切である。一人ひとりが「自分は愛されている必要な存在」として感じながら過ごすことができるよう保育者集団は共通理解を持ち、また自立を目標とした必要な援助をしていきたい。

〈反省・評価〉

- ・毎日のミーティングで、一人ひとりの心の育ちに目を向けて小さな出来事も報告し合い、幼児理解を深めることができた。

- ・自由に遊ぶ時間を多くもつことで、それぞれ個性を持つ子どもたちが、時にはぶつかり合う経験をしながら深く接しあい、関係を築き、育ちあう集団となるよう援助した。トラブルが起こった時には、子ども同士のぶつかり合いは成長の上で必要な経験であると保護者にも伝え理解してもらえるよう努めた。それぞれが深く遊び込む経験の中で、互いの違いを知り、認め、また自分を知り、皆が必要な存在だと感じるようになった。
- ・保育者自身もそれぞれの個性を大切にし、認め尊重し合い、それぞれの年代からの視点で幼児への関わりを持った。
- ・自然に多く触れ、生き物の飼育・野菜の栽培などの活動を行い、いのちの不思議さ・尊さを感じ、自らの命についても考えるきっかけとなった。
- ・無条件に愛してくださり、そばにいてくださる神様の存在を、礼拝、祈り、普段の生活の中で伝えることで自己肯定感を育むよう努めた。
- ・保護者アンケートでは

子ども一人ひとりを理解し、大切にした指導や援助が行われていると思いますか。

A 85.8.0.% B 12.6% C 1.5%

と高評価を得ている。

(1) の評価 A

(2) 保護者、地域と手を携えて子どもとともに育ち合う幼稚園

①様々な活動のねらいや、一人ひとりの園児の課題や目標などを保護者にわかりやすく伝える

〈解説〉園児の成長発達は、家庭と幼稚園が同じ視点に立って同じ思いで見守る必要がある。常に、保育のねらい、成長の様子を伝えることが大切と考える。印刷物、ホームページ、ブログを最大限に活用し、親子礼拝に参加した保護者に、その時期の保育のねらいや、園児の様子を伝える機会を持ちたい。

〈反省・評価〉

- ・『まど』（園全体の月ごとの活動の様子を伝えるもの）では、どの子についても万遍なく写真が掲載されるように配慮し、わかりやすく伝えることができた。
- ・ブログについては、全保育日に更新し、リアルタイムで園児の様子を伝えることに努めた。
- ・ホームページの行事アルバムには、コメントを載せ、その活動に対する園の考え方などを載せてきた。
- ・保護者アンケートでは、

毎月の園だより、『まど』、ホームページやブログでは幼稚園および教師の思いやお子さんの様子が伝えられていますか。

A 82.6% B 17.3%

という高評価を得ている。

②個々の保護者とのコミュニケーションを大切にし、同じ思いで成長を見守る。

〈解説〉個々の保護者と、様々な形でコミュニケーションを常に図り、どのような願いを持っているかを聞きながら、同時に園が個々に行っている援助についても理解していただく工夫をしていきたい。

〈反省・評価〉

家庭訪問週間、個人懇談週間を設け、個々にゆっくりと話す機会とした。また、心配事の相談を受けた時、教師から特に伝えたいことができた時には、出来るだけ顔を合わせて話ができる
・保護者アンケートでは、

園児の保護者に対する子育て支援の働き(預かり保育等)が十分できていると思いますか。

A 85.1% B 14.1% C 0.8%

子育ての悩みや心配事、園へ疑問、質問に対して、誠意を持って答えていますか。

A 82.4% B 16.8% C 0.8%

という高評価を得ている。

③地域の資源を最大限生かしながら、園児自身が地域を知り、楽しむ。

〈解説〉地域にある幼児の楽しむことのできる施設を最大限利用したい。それを園全体、クラス毎に活用することで経験を共有し、様々な活動に広げることができる。また、地域を知り、安全に歩くことも体験させたい。

〈反省・評価〉

下記のように資源を活用した。

春のバス遠足～さとらんど

夏のお泊り会～円山動物園

年長児の防災活動～防災センター見学

親子遠足～平岡公園（園から3キロ）まで徒歩で

りんご狩り～長沼なかのフルーツパーク（収穫感謝礼拝）

青少年科学館見学

そり遠足～馬場公園

このような大きな活動の他にも、毎日のように通常保育中に園の周囲の公園を散策した。どの活動もダイナミックな空間の中で開放的に楽しむ姿が見られ、また園内の製作活動・表現活動にもつながった。今年初めて行ったりんご狩りでは、もぎたてのりんごを丸かじりし自然の中で遊ぶ普段できない体験を通して、収穫を感謝する絶好の機会となった。その後の園内での活動でも「りんご狩り」を絵で表現する姿が見られ、子どもたちの感動した心の内を見ることができた。

・保護者アンケートでは、

近隣の公園や、青少年科学館などの施設等の地域資源を保育の中に活用できていると思いますか。

A 90.6% B 9.4%

という高評価を得ている。

④地域に向けて子育て支援を行う。

〈解説〉少子化、共働き家庭の増加に伴い、子ども同志の交流の少なさ、子育て支援の必要性を強く感じる。地域の実情にあった支援を考えたい。

〈反省・評価〉

今年度は年8回の園開放（わんぱく広場）を行い、毎回十数組の親子が訪れ楽しむ姿が見られた。そこで、交流が広がっていく姿・子育て相談をし合っている姿があり、良い交流の場となっていると感じる。

また、2012年度に開設した幼稚園保育室（現在は一時預かり一般型）は常に定員を満たす状況、来年度施行予定の認定こども園に対する見学者も多数おり、この地域においての子育て支援の必要性を強く感じる。

・保護者アンケートでは、

園開放や幼稚園保育など、地域へむけての子育て支援について、幼稚園の役割を果たしていると思いますか。

A 81.2% B 17.2% C 1.6%

という高評価を得ている。

(2) の評価・・・・・・・・A・・・・・・・・

《次年度の重点目標》

「愛されて育つ」

- (1) 子どもたちが愛されていることを実感し、安心して感性豊かに育つ幼稚園
- (2) 保護者、地域と手を携えて子どもとともに育ち合う幼稚園

〈解説〉

2017年度は幼保連携型認定こども園として、スタートする年。新園舎となり増員した新職員とも知恵、力を出し合い一丸となって土台を作り上げて行く時と考える。当園は、幼稚園が行う認定こども園ということを忘れず、これまでの歴史・文化を大切にしながら、その新しい土台を築く1年としたい。園児の年齢の幅が広がり、職員数も増え一日継続して子どもを見つめることは難しい状況だが、密な連携を図れるよう工夫し、どの子どもどの保育者からも「愛されている」という心の安定を土台に、そこから挑戦したり冒険したりと園生活を発展させ成長していけるよう願う。家庭環境の多様化、様々なニーズに応えていくためには、課題も多いが、キリスト教保育を行う当園の理念を忘れず、イエス・キリストを中心にした聖書に立って確かめ合う、揺るがない確かさを土台にして進んで行きたい。子どもたちが安心して今日を生き、教師は導き手ではなく、共に歩む存在として、子どもとともに、保護者とともに、同僚とともに、そして地域とともに歩む者となるようお願い、次年度の重点目標とした。